

モネの名作とコレクター



佐々木氏



維新政府の方針に憤った士族たちの反乱が佐賀で鎮圧され、主導した江藤新平の斬首刑が執行された二日後の明治七（一八七四）年四月十五日、パリでは著名な写真家ナダールのスタジオで、気鋭の若手美術家たちが自らの資金で開催した展覧会が小さな話題になっていた。

「画家、彫刻家、版画家などによる共同出資会社による第一回展」である。

当時パリは急速に近代化が進んでいたが、画壇の中心は依然として古い価値観にとらわれるサロンの画家たちに独占的に占められていた。意欲に燃える気鋭の若者たちは、そこに一石を投じようとしたのである。

展覧会は、伝統とあまりに異なる表現ゆえに酷評され、作品も若者たちが望んでいたほどには売れなかった。それでも一部ではあるが評価する人々もいて、静かだった池にさざ波をたてることには成功した。

やがて美術界圧倒

やがてそれは大きな波となつて、アカデミズムに縛られる美術界を圧倒していくことになる。今ではこの展覧会の正式名称は忘れられた。代わりに、大きな波となつた若者たちの画期的な運動の始まりを告げるものとして、こう呼び親しまれている——「第一回印象派展」。

印象派という名称が、同展に出品されたクロード・モネの「印象・日の出」を、批評家ルイ・ルロワが風刺新聞『ル・シヤリヴァリ』で揶揄して、まるで印象だけで描いているような絵だと評したことがきっかけであるのはよく知られている。

サロンに落選し、画家としての評価を得られない貧しい画家たちを、富裕階級出身の画家仲間であるギユスターヴ・カイユボットやフレデリック・バジールが、アトリエを提供したり、作品を購入したりするなどして支えた。

二点あるうちの小品を日本人が買って「棺桶かんおけに入れる」などと暴言を吐いたことでも有名なルノワール作「ムーラムラ・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」はカイユボットが購入、死後フランスに遺贈され、今はオルセー美術館の目玉のひとつとして展示されている。

また、それ以上に印象派の画家たちの経済的な支えとなったのが、当時台頭してきた新興のブルジョワである。ゾラやモーパッサンなどの廉価版出版で大きな成功を収

新聞、社内報、パンフ、チラシなど各種印刷物の編集・制作
自分誌・記念誌等の書籍類、会社案内などのDVD制作も



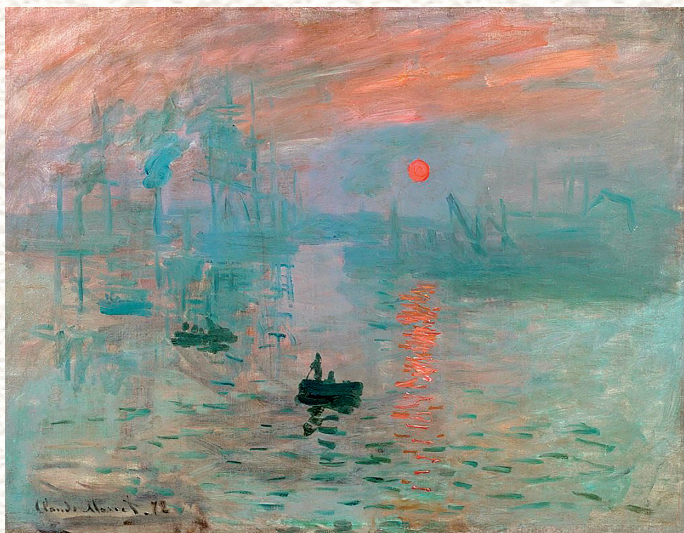
(株) いわきジャーナル

〒971-8141 福島県いわき市鹿島町走熊字小神山 29 (ヤスミツ第1ビル・2-A)

URL <https://www.iwaki-j.net> E-mail read@iwaki-j.net



まずはお電話から ▶ TEL.0246-29-2424



●クロード・モネ
「印象・日の出」1872年
モネが故郷ル・アーヴルの部屋の窓から眺めた風景。形ではなく光が生み出す色彩効果に主眼をおいている。印象派を象徴する歴史的に重要な作品。長く73年作と考えられていたが近年、アメリカの天文学者が風景と一致する気象を1972年11月と特定した

めたジュールジュ・シャルパン
テイエ、関税局職員を務めた
ヴィクトル・シヨケ、ルーマ
ニア出身の医師ジュールジュ・
ド・ベリオなど幾人もこのコレ
クターたちが彼らを熱心に支
援し、作品を購入した。

タイトル誤記載に

デパートを手掛けるエルネ
スト・オシュデもその一人で
あり、とりわけモネとのかか
わりで歴史に名を残してい
る。

過度な浪費でやがて破産す
るオシュデには、その散財ぶ
りを物語る次のようなエピ
ソードがある。
裕福な家庭の出身である妻
アリス所有のロッテンブル
城（パリ南東十キロ）を別荘
にして、そこに大勢の客たち
を招待するために専用列車を
仕立てたというのである。

オシュデは第一回印象派展
以来多くの印象派の作品を購
入したが、一八七七年に破産
し、コレクションは競売にか

けられることになった。まだ
印象派の評価が定まっていな
い時代であり、売却価格は驚
くほど低かった。市場に安い
作品が大量に出回ったため、
印象派の画家たちは作品が売
れずに困窮したという。
行き場を失ったオシュデ夫
妻と六人の子をモネが引き取
り、すぐに離れて暮らすよう
になったオシュデが九一年に
亡くなると、モネとアリスは
結婚した。

「印象・日没」と記載され、
落札価格もわずか二百十フ
ラだった。
購入したのは、同じく熱心
な印象派コレクターのベリオ
である。「印象・日の出」は
一九四〇年、ベリオの遺族か
ら開館まもないパリのマル
モッタン美術館に寄贈され
た。
さらに六六年、この作品を
所蔵していることがきっかけ
となってモネの遺族から彼の
作品が大量に寄贈され、同館
は名称をマルモッタン・モネ
美術館に改めた。世界最大級
のモネ・コレクションの誕生
である。

筆者プロフィール

佐々木 吉晴

ささき・よしはる

1956（昭和31）年宮城県生まれ。
東北大学文学部哲学科美学西洋美術史
専攻卒業。いわき市在住。1980年、
いわき市立美術館建設準備室に勤務、
学芸課長、副館長を経て2012年から
2021年まで館長。現在、宇都宮美術
館長、斎藤清美術館長、全国美術館会
議理事・災害対策委員長

心かよう絆を大切にしたい…。

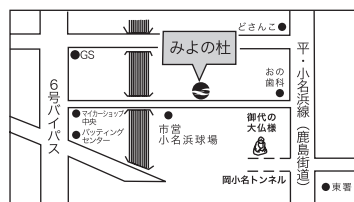


御代の大仏様のおひざ元

仏式・神式・キリスト教式・生花・花輪・祭壇
ホール・(大)800名様以上(中)300名様以上
(小)300名様まで

バス送迎・霊柩車・霊安室設備・法要膳
予算及び自宅葬の御相談承ります。

メモリアルホール
みよの杜



住所：いわき市鹿島町御代字赤坂22-1
年中無休・24時間受付

TEL.76-0202